

# 東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

## 「なぜ税は嫌われているのか」

足立区立谷中中学校

三年 岡田 昇馬

私は税について調べていたとき、ふと疑問に感じたことがあった。それは、医療費や教育費など公共のために使われている税金がなぜ嫌われているのか、ということだ。私は税金を払っている感覚がまだあまりないため、家族との話し合い、またインターネットを用いて自身で調べたりなどし、その謎の答えを自身なりに考え出してみることにした。

まずは、税金の種類の高さにあると考えた。消費税率は日本が十パーセントに対し、ヨーロッパ諸国は二十パーセント以上の国が多い。このことから、日本の税金はとても高いというわけではなかった。だが、日本の税金の種類は約五十種類存在しているため、たとえ各税金の支払う金額が少なくても総合的に見ると負担額が大きくなるのではないかと考えた。

次に、税制の改正が頻繁で認知が追いつかない問題があると考えた。改正は毎年のように行われていく。「株式会社 PR TIMES」によると『二〇二四年一月一日より生前贈与や相続税に関する税制改正が行われることを知っているか？』聞いたところ、四十九・八%「知らない」と回答。』となり、認知度の低さがうかがえる結果となった。このことから、多くの人が改正された税制について認知していないため、税制の良くない部分が悪目立ちしていると考えられる。

税金とは少し違うが、少子高齢化の影響により年金制度の維持負担が高まっていることにも問題があると考えた。少子高齢社会になっていることで、一人の高齢者に対しての一人当たりの負担額が大きくなってきているのである。このままでは、二〇五〇年には高齢者一人に対し一・三人しか負担できなくなってしまう。

以上の問題より、税金が嫌われている理由であると私なりに考えた。では、これらの問題を解決するにはどのような行動を起こせばよいのだろうか。

何よりも税に関して国民がちゃんと理解することが重要だと考えた。そこで、私は義務教育に目を付けた。義務教育での税に関する教育は、租税教室や、この税についての作文などしか税にふれることがない。そのため、より税に関してのカリキュラムを取り入れるべきであると考えた。また、頻繁に改正される税制に関して、多くの媒体を用い大々的に取り上げること、より多くの国民に認知してもらえらるだろうと考えた。

この作文を書くにあたり税に関する情報を集めることを通して、税というものとはとても奥が深く、私たちが気付かないところでも税が使われていることが分かった。また、税を知ることが社会的に有利になることでもあり、世の中を見据えることができるのではないかと感じた。